

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500786		
法人名	有限会社 オフィス・KPG		
事業所名	グループホーム 夢楽の園 (ゆうらくのその)		
所在地	千葉県千葉市緑区誉田町2-29-6		
自己評価作成日	平成23年2月12日	評価結果市町村受理日	平成23年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉市中央区千葉港4-4 労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成23年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

千葉県産の杉を壁や天井・床・家具等にふんだんに使用し、昔ながらの板倉作りと呼ばれる工法で建たホームです。法人の取締役が他のホームを見学した上で、「自分が入居したいホーム」として開設しました。開設して5年が経過し、利用者様の身体能力は低下しておりますが、まだまだ「楽しめる！出来る！」を目標に職員一同頑張っております。
利用者様主体の町内会議では、「やりたいこと、行きたい所」を話し合い実行に繋げることが出来るよう努め、一日一回でも多く笑い、一日一歩でも多く歩き体を動かすことを支援しております。
高齢者の課題でもある無気力・退屈・孤独を解消し、「夢のある楽しい生活」を現実とする利用者様と職員が共に暮らす第2の家庭です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営者の「全国一のグループホームをめざす」との高い理想を実現するべく、「心の声に耳を傾ける」という理念のもとに、おいしい食事や毎朝の散歩、各種レクリエーションの実施で利用者本位のケアを実践している。また、質の高いケアを目指すために、ミーティングが有効に機能している。運営推進会議には入居者自身も参加し発言するなど、意見や要望が言いやすい環境ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心の声に耳を傾ける」という理念をもとに、職員は一人一人の利用者様と向き合い、言葉に出来ない思いを汲み取るよう努めている。	「心の声に耳を傾ける」という理念が掲げられており、職員、入居者に周知のものとなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域マラソンの応援やお祭り等の行事に参加したり、近隣中学校の職場体験の受入を行っている。また、近隣の家から野菜や果物の差し入れをいただいたり、ホームで作ったお菓子等を配ったりと、交流も盛んである。	近隣との交流は活発である。最近、入居者も参加してパンの販売の協力を行っているが、これも近隣の住民に好評である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や学生ボランティアの訪問を多くし、また屋外ケアを活発に行い、認知症の人への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム職員、家族代表、民生委員、地域包括支援センター、自治会、千葉県相談員らが参加して、4ヶ月に一度開催している。利用者も含め参加者全員が意見を発言できる場面を作っている。	七夕会、クリスマス会、ひなまつり会など、ホームの行事と同一日に設定をし、参加率の向上を図っている。入居者の家族だけでなく、入居者本人にも必ず発言をお願いし、会議に参加している意識を持ってもらうようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや区の福祉センター等に出向き、利用者様やそのご家族の相談等を行い、情報交換を行っている。	地域包括支援センターの職員は運営推進会議にも出席しており、ホーム運営上の各種相談もしやすい関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を受講した職員が全体会議の時に、内部勉強会を行っている。玄関、テラスとも施錠はせず、いつでも自由に外へ出られる状態である。	ホーム開設時から、玄関の施錠はせず、徹底しているなど、管理者と職員は拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は外部研修で学び、内部勉強会を行っている。またニュース等で知った虐待の事例をもとに話し合いの場を設けている。		

【調査機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等には参加していないが、内部勉強会を行っている。 利用者2名の成年後見制度を支援しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書および重要事項説明書の内容をひとつひとつ説明し、理解を得て合意の下、締結している。 また、解約時は退去先を支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様は月1回開催される町内会議で自由に意見を述べている。またご家族の意見等を把握する為、面会ノートに記入欄を設けている。それらをサービスに反映するよう努め、運営推進会議等で皆様に報告している。	ホームをひとつの「町」と見て、入居者は「町民」である。「町内会」があり、「町内会長」(入居者)も存在する。「町内会議」はスタッフの全体会議と同一日に実施し、ホームの運営について出た意見や要望を運営に反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議や月2回のケアカンファレンスで、職員の意見や提案を聞き、検討している。職員が毎日提出する業務日報にも、意見や提案を記入するスペースを設けている。	全体会議等で、改善提案が積極的に行われている。職員みんなで改善を進めようという意識ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を行い、職員の希望を汲み取るよう努めている。 また離職者が出ないよう労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加するよう促している。 全体会議では、外部研修を受講した職員の発表をもとに勉強会を行ったり、テーマを決めた内部研修を毎月行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は積極的に他のグループホームを見学したり、見学を受け入れたりと、外部の情報を取り入れ、サービスの質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活歴や病歴等を出来る限り情報収集し、利用者様の要望に傾聴し、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活歴や病歴等を出来る限り情報収集し、ご家族の介護の苦労を労い要望に傾聴し信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コミュニケーションを多く取り、言動を良く観察した上で、利用者様主体の気持ちによりそった個別の具体的な支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員がホームを第2の家庭・家族とし、暮らす関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の持つ悩みを定期的に電話や面会時に伺い、ご家族と利用者様がより良い関係を築けるよう努めている。ご家族と利用者様が一緒に過ごす時間を作るよう、ご自宅や外食への外出を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の知人やご近所様、仲人をした方等がいつでも面会に来れるよう支援している。また、自宅近辺のドライブや馴染みの公園、お墓参り等への屋外ケアに努めている。	各種交流を通じて近隣との良好な関係が構築できているため、近隣の住民が気軽にホームに来訪できる環境ができている。入居者の家族の訪問も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様だけでお茶やゲームをする場面や利用者様主体の町内会議を月に一度行い、自由に意見交換をする機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した利用者様のお見舞いに行ったり、誕生日にお花とメッセージカードを贈ったりしている。 ご家族にはお茶等にお誘いし、来園していただきその後の関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族面会時に意見や希望を聞き、出来る限り取り入れている。職員が気付いたことや感じたことを文書で挙げ、本人の意向を検討している。また、利用者様主体の町内会議で意向や希望を職員を交えて話し合っている。	ホームをひとつの町内会として見立て、入居者の中から町会長を選出している。町内会議が月1度開催され、話し合いを行っている。議事録が作られ入居者の意向や希望の聞き取りがされている。職員は日々の暮らしの中での気づきを文書にし、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族、ケアマネジャー、病院の医師や訓練士等から出来る限りの生活歴等の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の意思を尊重し、一日の過ごし方を決めている。職員は出来ないことを探すのではなく、出来ることを探すことに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体会議を月1回、ケアカンファレンスを月2回開催し、また週2回の訪問看護での気付きや訓練士等の意見を取り入れ、利用者様やご家族と話し合いのもと、介護計画を作成している。	居室担当を決めている。全体会議やケアカンファレンスで検討が行われている他、協力病院の医師・機能訓練士・看護師の意見を取り入れた介護計画が作られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、日報、申し送りノートで情報を共有し、ケアカンファレンスや全体会議で課題解決に向け検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族だけでは対応できない通院や検査、健康診断、またお墓参り等に職員が柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館、スーパー、公園、外食等に出掛けたくさんの交流を図っている。散歩ではご近所の方々との立ち話等を楽しんでいる。また吹奏楽や草笛、ピアノ演奏会等のボランティアが多く来訪している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医による月2回の往診や、気軽にいつでも相談できる等の医療連携体制が出来ている。歯科医の訪問診療で、口腔ケアの支援も行っている。年1回の耳鼻科受診で耳掃除も行っている。	提携病院による月2回の往診や契約看護師による週2回の訪問が行われている。同病院の機能訓練指導員との相談体制もあり、場合によっては訪問してくれることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護では、バイタルチェック後に利用者様、職員とお茶をする場面を作り、気楽に何でも相談できる関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とご家族と連携を取り合って話し合い、早期退院に向けて働き掛けをしている。職員はお見舞いに頻回に出向き、食事摂取や排泄、歩行状況の観察を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご利用者のご家族の意思を踏まえ、ターミナルケアについての書類を作成している。終末期はこれまでの生活の延長線上に必ずやって来る当然の事として捉え、利用者様とご家族の意向を尊重し、医療との連携を深めながら対応して行く方針を職員とも共有している。また主治医とも良く話し合いをしている。	入居時に、重度化した場合のケアについて可能な限り対応することを家族に説明し、書類を作成し同意を得ている。主治医と話し合いも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、夜間緊急や喉詰まりの吸引機使用法、タッピング等の訓練を日頃より行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動火災報知設備及び火災通報装置を完備し、スプリンクラーの設置も計画している。消防計画の下、年2回の消防訓練を行い、消火、避難誘導、夜間を想定した訓練を徹底し実施している。運営推進会議等を利用し、地域の方々に協力を働き掛けている。	懸案事項であったスプリンクラーを設置する予定である。消防訓練を年2回、夜間を想定した訓練も行っている。ホームの実情は運営推進会議を通して近隣にも理解されており、非常時の連絡方法も共有されている。	地域との付き合いをもう一步進め、災害時の安全、安心の確保を期待したい。

【調査機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室にトイレ完備のため、共用トイレにおける羞恥心配慮の問題は発生していない。利用者様が排泄を訴えた時にすぐ誘導、介助できる職員は常に目配りしている。また記録を取り排泄パターンを把握するよう心掛けている。	町内会や運営推進会議に入居者全員の参加が見られ、入居者一人ひとりの尊重に繋がっている。また、プライバシーへの配慮を意識してケアが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様主体の町内会議を行い、ここでどのように暮らしていきたいか自由に意見を出し合っている。また、個別対応を重視しやりたいことや行きたい所等に個々に付き添っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	10時のお茶時に今日は何をして過ごしたいか、利用者様と意見を出し合っている。一日の大まかな流れはあるが散歩やドライブ、自宅でテレビ観賞、読書や編み物等一人一人が思うままに生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の美容室に利用者様の希望に応じて、いつでも出掛けてパーマやカットを行っている。また、訪問理容もあり、好みのカットを行っている。洋品店や化粧品店にいつでも出掛けることができる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常は配食業者から食材を届けてもらうが、利用者様の希望に沿ってフリーメニューとし、畑で採れた食材等を利用し皆で調理している。また外食デーやデザートデーを行ったりもしている。午後のおやつは職員手作りのものが多い。食器は利用者が持参したものや陶芸教室で作ったものを使用している。	配食業者から届けられた食材で、職員と入居者が一緒に調理している。月に数回は入居者の希望に沿った献立にしている。ホームの畑で収穫したジャガイモでコロケを作り、近隣におすそ分けしたり、外食にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食業者にカロリーとバランスを配慮してもらい、職員は咀嚼の大切さを意識し支援している。利用者の食事量等は毎日記録され、刻み食等も必要に応じて提供している。入居後ADLが向上し、普通食になった利用者も多い。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にうがい、歯磨きを居室の洗面台で促し、義歯の手入れも毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、パターンを把握してさりげない声掛けで誘導を促している。日中は布パンツで過ごし、トイレでの自立排泄に向けた支援を行っている。	職員は排泄パターンを把握し、時間を見てトイレ誘導を行い、自立に向けて支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に摂取し、朝食には十六穀米を取り入れ、手作りヨーグルトや畑で収穫した野菜等の食材を工夫している。個々にあった運動を取り入れ毎日の散歩で、スムーズな排便を習慣づけるよう支援している。排便チェック表を作り、観察しながらトイレでの排泄を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	檜のお風呂で、窓からは季節の花等を眺めながら露天風呂感覚で楽しめる。入浴は2日に一度が基本で、9回に一度は一番風呂に入れるローテーションを組んでいる。毎朝、蒸しタオルでの清拭と陰部洗浄を行っている。	浴室は明るく清潔である。窓越しに季節の自然を見ながら、入浴することが出来、入居者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出や散歩、体操等日中の活動を多く取り入れ、個々に合わせた生活リズムが安定するよう工夫している。安易に入眠剤を使用しないようにし、寝付けない時には、職員が話し相手になったり、ホットミルクを飲むなどし、入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一週間分の薬を個別のメディカルボックスに入れて、利用者様の手の届かない場所で管理している。 職員は薬の目的や用法を把握し、変更があった場合は、観察し記録、申し送り徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯干しやたたみ、食器拭き、料理の盛り付け、花壇の手入れ等、利用者様個々の力量に応じたことを行っている。 またリハビリや脳トレ、編み物、裁縫と好みに合わせて行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は、車に乗って公園や図書館、ウィンドウショッピングに出掛けたり、ホーム周辺の散歩を行う。四季を通して、初詣やいちご狩り、お花見、紫陽花見学等の遠足に出掛ける。個別では、ショッピングやお墓参り、美容室などへ出掛けている。	雨天でなければ、少人数でホームの周辺を散歩している。車を利用して公園や図書館にもよく出かけ、入居者は図書館でCDや本を借りている。正月は、家族の元に数時間でも帰ることが出来る様、家族に働きかけている。	

【調査機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物は頻繁にスーパー等へ出掛け、本人が財布を持ち自分で支払ったり、残高を確認したり、お小遣い帳を計算したりと、金銭管理を本人が行える力量に応じた場面作りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙作りや年賀状、暑中お見舞いを送る習慣を大切にしている。 ご家族や知人への電話は自由である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房で温度差の無いバリアフリーの建物は、全体が無垢材で作られ木の温もりがある。リビングはたっぷりの光が差し込んで、手作りの日めくりカレンダーがあり、あちこちに四季に合わせた、飾付けや生け花がある。リビングから外に出るテラスは、洗濯物や布団干し場となっているが、時には開放的なランチ食堂や喫茶店となっている。また、キッチン上のロールカーテンを下ろすと、映画のスクリーンに早変わりする仕組みとなっている。	落ち着いた感じのホーム全体に、ひのきの香りがする。建物の南面には桜や梅の木が植栽され、居間もテラスも日当たりが良い。職員は対面式のキッチンで入居者と会話をしながら台所仕事をしており、普通の家庭のような雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前のホールにソファを置いたり、花壇の前やウッドデッキにベンチを設置したりと、自由に過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋ごとの配置や間取り、窓から見える景色も多様である。利用者様はそれぞれ気に入った家具や本、写真を持ち込み自分だけの安心と癒しの空間を作っている。	各居室は個性的で落ち着きのある設えとなっている。部屋毎にトイレが設置されているが、掃除が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室トイレの手摺りは各利用者様の状態に合わせて設置し、柱の角にはカバーをするなどし、身体機能の低下に合わせて対応が出来るよう、安全に配慮した設備や工夫を行っている。		